

少連協ニュース

発行所 / 足立区少年団体連合協議会

<http://www.a-shorenkyo.jp>

〒 120-8510 東京都足立区中央本町 1-17-1 足立区役所

青少年課 青少年事業係 TEL 03-3880-5275

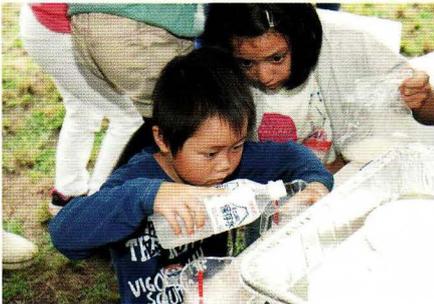
発行人 山本 輝夫

編集 調査広報部

鈴木(春) 大関 田中 小野田

川田 小澤 加藤 高橋 川下

高澤 山岸 南部 辻村 市川



笑顔いっぱいの子どもたち



「子どもは親のいないところで育つ！」自分もこの夏に学ぶことはたくさんある。

戴きましたチーム少連協の皆様には深甚なる感謝を申し上げます。

目指す目標に邁進している。将来が楽しみで誇りに思う。この度のミッションに方向を見出すリーダーシップにも感謝したい。ご尽力

「子どもは親のいないところで育つ！」自分もこの夏に学ぶことはたくさんある。

定感はずらに導く大きな力だ。

参加した子どもたちの感想は、夏休みに多様な刺激を受けたようだ。日頃の生活環境では得られない、自然界の営みの中で視覚や聴覚、触覚は素晴らしい体験だ。うまく言語化が出来るなくても、まずは家族や友だちに語り合うことは有意義である。自分自身が受けとめた感性を言葉に置き換え、相手にうまく伝えることは容易なことではないが、子どもの成長には欠かせない。また、聞く側の姿勢も大切で、聞き上手が有効だ。

さて、報告会で強く感じたことは青年リーダー・ジュニアリーダーの活躍が実に頼もしく輝いて見えたこと。高く評価すべきで何よりうれしく思う。大学生・高校生・中学生・小学生の連帯は目指す目標に邁進している。将来が楽しみで誇りに思う。この度のミッションに方向を見出すリーダーシップにも感謝したい。ご尽力

うに受けとめているのだろうか。

キャンプで学んだ実体験と調整能力は何ものにも代え難い。スタッフも含め総勢百五十名に及ぶキャンプでの学びに勝る教えないとも言える。少連協役員・スタッフ・青年リーダー・ジュニアリーダーの貴重な経験値は計り知れない。少連協の使命は、すべての子どもや大人が関わり「成功体験」を味わうこと。自己肯定感はずらに導く大きな力だ。

参加した子どもたちの感想は、夏休みに多様な刺激を受けたようだ。日頃の生活環境では得られない、自然界の営みの中で視覚や聴覚、触覚は素晴らしい体験だ。うまく言語化が出来るなくても、まずは家族や友だちに語り合うことは有意義である。自分自身が受けとめた感性を言葉に置き換え、相手にうまく伝えることは容易なことではないが、子どもの成長には欠かせない。また、聞く側の姿勢も大切で、聞き上手が有効だ。



足立区
少年団体連合協議会会長

山本 輝夫

夏休みのキャンプに学ぶ

少連協が総力を挙げて取り組む、足立区の受託事業「ジュニアリーダー研修会わくわく遊び塾・御殿場宿泊キャンプ」の報告会が八月二十日、ギヤラクシティで行われた。

四日間のキャンプはジュニアリーダー研修会終了者が参加できる。雄大な富士山の麓で大自然に包まれるテント生活は日常の営みとは大きく違う。さて、参加したジュニアリーダー達はどのよう

今後の活動への第一歩

足立区少年団体連合協議会 定期総会

定期総会が開かれる

平成二十九年五月二十日、綾瀬プルミエで足立区少年団体連合協議会の定期総会が開催されました。

総会には、七十九名（委任状八十三）が出席し開会となりました。はじめに山本輝夫会長から、「地域で活動する子どもは自立できる力を身につけられる」という新聞記事の紹介があり、「子どもたちの健やかな成長を支援するためなどに取り組みたい」と決意が述べられました。続いて、鈴木春男



山本輝夫会長あいさつ



役員紹介

○田中加代、会計…日高佐和子、下島泰則、○清水康弘、○足立義之、総務部長…○林俊二、調査広報部長…○大関英広、事業研修部長…○多島三好、育成部長…○鹿浜安弘、会計監事…山崎金壽、岩澤明美
※○印は、新任です。

【退任役員・常任理事】

総務部長 元井一壽

第五 中田哲郎

第十一 小池孝善

【新任常任理事】

第五 田中加代

第十一 猪狩嘉男

《新年度 活動方針》

「ゆたかで優しい、輝く元気な子」・「地域社会で子どもを育むネットワーク」と捉え、未来を担う青少年のために、地域のすべての大人は子どもの育成者となり足立区全域で展開する。また、異年齢集団の特色を生かした循環型少連協ビジョンを推進し、事業を展開していく。（以上、抜粋）

■チーム少連協の結束を図る

総会に続いて、懇親会が開かれ、はじめに出席者一同で「わがまち足立」を斉唱して、ご来賓の定野司教育長、高山のぶゆき区議会議



万歳三唱



定野司教育長あいさつ

長の皆様方からご挨拶を頂戴しました。その後、子ども会やジュニアリーダー、夏休みの行事等々を話題にコミュニケーションの花があちこちのテーブルで咲き、チーム少連協の結束が図られ、今後の少連協の活発かつ充実した活動の第一歩となりました。

退任あいさつ

感謝

前総務部長 元井一壽

平成二十八年度まで少連協総務部長を務めさせていただきました。在籍中は総会のお手伝いから始まり、常任理事会の受付、日帰り研修会、新年会の運営等の総務部に関わる仕事をいたしました。一つひとつの仕事がつつがなくできましたことは、意欲溢れチームワークのとれた総務部員の皆様のおかげであります。

振り返りますと、色々な思い出が浮かんできます。部員さんとの協力でその場をしのいだエピソードをご紹介します。

それは、三年前の新年会の時でした。少連協では、毎年恒例でビング大会を行っておりますが、私が用意するはずのビングカードを忘れてしまい、慌てて一つ家の百円ショップまで買いに行きました。何とかゲームの時間までに間に合い、カードを配り終えると、そのカードには数字が印字されていませんでした。

私が困っていると、一人の部員

さんが、「皆様、いつも数字が決まっているカードを渡されて面白くないでしょうから、あえて白紙のカードをお配りしました。一から七十五までのお好きな数字を入れてゲームに参加してください」と、助け舟を出してくれ、ゲームは大変盛り上がりました。これはほんの一例ですが、ほかにもたくさん助けてもらいました。

部の中が和気あいあいと楽しく活動できるのは、部長の力量ではなく、部員さんとのコミュニケーションを日頃より取っておくことがいかに大切であるか、部長を務めさせていただき分かりました。

部員さんをはじめ、役員の皆さんに感謝を申し上げ、これからの少連協の益々のご発展を心に念じ、退任のあいさつといたします。



新任会長あいさつ

チームワーク

第十一地少協会長 猪狩嘉男

私が十一地少協の会長になって一年が過ぎました。色々な行事をしている中、あつという間でした。今度は理事との通達がありました。が、あらためて何をやろうと思いつつも、私一人では何もできません。何よりも地元役員皆さんのチームワークが大切です。

十一地少協は女性パワーが多であり、様々な面で助けられています。男性方も時間が許される時には気持ちよく動いてくれていきます。役員会や事業に多くの方がボランティアとして時間をさいてくださっていることに、私は常に感謝しております。

今年のジュニアリーダー研修会も、昨年より子どもの参加人数が多かったので、大変うれしく感じ、ホッとしました。子どもたちにとっても、笑顔で楽しく有意義な時間であったように思いました。

これからも皆さんとともに協力して、より良い少連協、地少協になるよう頑張っていきたいと思っています。

新任部長あいさつ

レベルアップに向けて

総務部長 林 俊二

今年度より、書記から総務部長を務めることになりました。

「総務」と聞いて「何でも屋」というイメージが思い浮かぶかもしれませんが、また、他の部署の中でも会における目的や意義が見えにくい部署かもしれません。

しかし、総務部が目指すものは会のレベルアップだと思っています。総務部の業務内容は、活動の推進役、コミュニケーションのパイプ役等、広範囲な業務に携わります。どれも運営には欠くことのできない重要な要素です。

私は、総務部員の皆様のサポートをいただきながら、「幅広い視点」で業務を遂行しようと考えています。どうぞ、今後ともご協力をよろしくお願い申し上げます。



初心に返る

事業研修部長 多島三好

今年度より事業研修部長に就任することになりました。

前清水部長に変わり指揮を取ることに悩み苦しんでおりましたが、七月八日(土)の子ども会育成者セミナーを準備し、無事終了させることができたのも事業研修部、役員の皆様の協力のお陰だと感謝しております。

現在、各子ども会の育成者及び子ども達の参加減少に苦慮している現状ですが、育成者セミナーを通して工夫することで現状維持から増やす可能性を模索していただければ幸いです。

後期事業としてドッチビー大会に向け早めに準備、段取り等を行い前期のミスを最小限にして臨みたいと考えております。

これからの事業を行うに当たって身近なことを進めて行かないと大事な物を忘れがちになり、空回りする恐れがありますが、今一度、初心に返り、事業研修部の皆様のお力を借りながら進めてまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

広報活動の推進のために

調査広報部長 大関英広

今年度、新たに部長に就き、これまでの僅かな経験を糧に、部員の皆さんと力を合わせ、読者には「今、どんな情報が求められているか。何を伝えしなくてはならないのか」などと、少連協の広報活動を推進していかなければならないと、職責を重く受け止めております。

「夏炬冬扇」という言葉がありますが、時季外れになることなく、時機を逸することなく、情報提供に努めていくことが、広報活動を担う者に課せられた使命であるとも認識しております。

また、現代社会においては、幅広い世代、かつ多くの区民向け広報活動は、紙面のみに頼ることなく、電子データの活用も不可欠であると考えております。

ホットでタイムリーな少連協ニュースの提供に努め、ひいては青少年の健全育成事業の充実に寄与してまいります。



初めまして

育成部長 鹿浜安弘

本年度より育成部部長を拝命いたしました。前部長が副会長に就任することになり、私が後任として育成部長のポストを申し渡されました。これまでは、一育成部員として自分の得意分野のプランを立てていればよかったのですが、これからは育成部全体の舵取り役という重荷を担うことになり、身の引き締まる思いです。

何分、初めての管理職、百戦錬磨の前部長には及びませんが、若さでは負けておりません。皆さまに教えを請うことや、不慣れな部分もたくさんありますが、お力添えをいただきたいと思っております。新しい気持ちで全力を尽くす覚悟です。どうぞご協力よろしくお願いたします。



「指導者クラブ」 発足一年を迎えて

指導者クラブ代表 境田則明

指導者クラブが発足し一年を迎えようとしています。これまでの主な活動は、定例会や幹事会での話し合いと情報交換、わくわく遊び塾での講師やキャンプの手伝い、また、スーパード研の講師やジュニアリーダークラブの指導と多岐にわたります。

今年度からは、私たち指導者クラブメンバーも、日頃の研鑽が必要だと考えました。

講習会へ参加のほか、定例会の中で外部講師からご指導いただいたり、経験豊かなメンバーの方にも交代で指導者になっていただき、互いに教え合うといった試みを考えています。

このような中、活動への参加が個人個人の判断に委ねられており、色々な団体に所属し忙しいメンバーが多い実情から、毎回の会合が少人数であったり、若いメンバーの参加が少なかったりといった課題や悩みがあります。



今後は、こうしたことを改善するため、会合の内容を精査したり、メンバー間の連絡を密にしていかなければならないと考えています。今、少連協の中に指導者クラブが位置付けられたことは、足立区のジュニアリーダー育成の大事な第一歩だと思っています。

ジュニアリーダー研修会の資料にあるとおり、小学四年生からわくわく遊び塾に、五年生からキャンプに参加し、ジュニアリーダーとして中学生や高校生がジュニアリーダークラブで実践・活躍し、大学生や大人として指導者クラブに入り、今度はジュニアリーダーの育成に携わっていく。こうしたサ

イクルになると考えているからです。

子ども達は時代とともに、常に変わっていきます。昔なら常識とされていたことが、事細かに説明しないと分かってもらえない時代でもあります。だからこそ、指導者クラブの存在は貴重であると考えます。私たちは、そうした変化に対応すべく研鑽や情報収集や交換を重ね、今後、増々発展していきたいようにしていきたいと考えています。また、これまで私たちがお世話になった先生方に引き続きご指導、ご助言をいただきながら、一歩ずつ歩を進めていきたいとも考えます。今後とも、よろしくお願ひ申し上げます。



ジュニアクラブ 指導者として

見上 亜里紗

足立ジュニアクラブが発足して早一年が経ち、現在ではジュニアリーダースパー研修会を卒業した中高生二十五名が在籍しております。

準備期間からクラブの発足、また長年クラブ員を指導してきた関根未香さんが退任され、本年度からジュニアクラブ指導者として大任を引き受けさせていただきます。

私自身も研修生から受講し、リーダーとして活動をしてきました。前任者には到底及びませんが全力でぶつかってまいりますのでどうぞよろしくお願ひいたします。

さて、現在のジュニアクラブの活動は毎月一回の定例会、ジュニアリーダースパー研修会のお手伝い、区内地少協、子ども会等の催し物でのお手伝い、そして、夏の宿泊キャンプでの企画・運営をしております。

キャンプのプログラム企画は、

毎年一月ぐらいから始まります。前年度より良いものを企画し、研修生の受け入れ態勢を整えて、四日間のキャンプを実施しております。

また、リーダー自身の技術向上のため毎年一回スキルアップキャンプを実施、江東五区のジュニアリーダー育成研修会への参加もあります。

本年度の目標としては、クラブ員で運営委員会を作り、自分たちでクラブを運営できる準備をしております。昔、子ども会等へお手伝いに行き失敗をしたとき、先輩リーダーから「習うより慣れる」と言われてきました。失敗するところが成長する糧になると信じております。

少連協の皆様には、まだリーダーとして物足りなく感じられるところが多々あると思いますが、ぜひ地元で催し物等がございましたら、お手伝いをさせていただきます、クラブ員へ厳しくご指導をいただきたいと願ひます。



「生きようとする力」を育てる 「J」宿泊キャンプ

今年も区内在住の小学五年生から中学二年生まで百名の研修生が宿泊研修会に集まりました。少連協のスタッフとしてキャンプに携わってきて感じているのは、研修生の自発性を高めたいことです。人間を自動車で例えれば、エンジンは「頭脳」、体は「車体」です。ただ車を動かすのに一番大事なものは燃料です。その燃料とは、やる気とか活力とか目的に向かって進もうとする力といわれる「生きようとする力」なのではないでしょうか。私も研修生として初めてキャンプに参加していた時は「何をしたいの？」と右往左往しておりましたが、ジュニアリーダーとしてキャンプに参加した頃には、指導者の先生に「これをやってみてほしい」とよく話にいき、先生を困らせたものです。しかしこの「これをやってみてほしい」という行動こそが「生きようとする力」そのものだと感じます。

最近の子ども達が過ごす環境は、燃費をよくしようと、エンジンにあたる頭脳をよくすることに偏っているような気がします。確かにこれから待ち受ける受験や就職などのことを考えると、エンジンは最良のものがいいのかわかりませんが、ガス欠のような疲れ切った顔をしている子どもを見ることが多くなっているのも事実です。

数年前に研修生だった女の子が、今年プログラミングリーダーとして自分たちでキャンプのプログラムを企画し、「これをやってみてほしいです」と言ってきたリーダーの目、自ら手を挙げて浴室の清掃役を名乗り出てきた研修生の顔の輝き、これこそがエンジンで燃料が燃え上っている時なのです。

このキャンプを通して「生きようとする力」という燃料をできるだけ多く積み込む活動をしてもらいたいのと同時に、「与えられるキャンプ」ではなく、「やってみ

たいキャンプ」に、いつの日かわるように、少連協全体として来年も企画していきたいです。

(育成部長 鹿浜安弘)



御殿場オリンピック表彰



退所式



燃え上がるキャンプファイヤー

	時間	プログラム
3日目	6:30	起床
	7:00	朝の集い 朝食 (野菜いため・パン)
	9:30	選択プログラム
	11:30	昼食作り (カレーライス)
	13:30	活動 プログラム
	16:00	夕食
	17:00	文化祭・キャンプファイヤー シャワー
	21:30	係会議-班会議 就寝準備・就寝

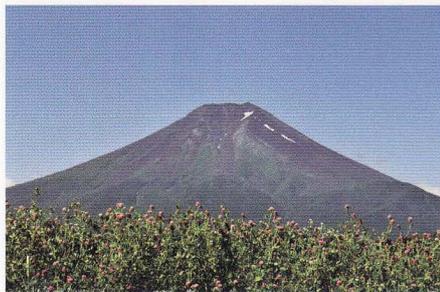


みんなでいただきます!

	時間	プログラム
2日目	6:00	起床
	7:00	朝の集い 朝食 (豚汁・ごはん)
	8:30	ウォークラリー
	12:30	昼食
	13:30	活動プログラム」(御殿場縁日)
	15:30	夕食作り (煮込みうどん)
	19:00	ナイトハイク シャワー
	21:00	係会議-班会議 就寝準備・就寝

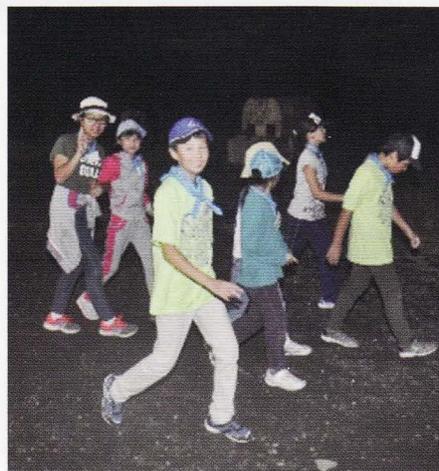


かき氷



ウォークラリーのクエストは?

	時間	プログラム
4日目	6:00	起床
	7:00	朝の集い (荷物を持って) テント撤収、備品改修
	8:30	朝食
	9:30	フィールドゲーム
	11:30	昼食
	12:30	退所式
	13:30	国立中央青少年交流の家 発
	16:30	島根小学校着 解散式



ナイトウォーク

キャンプ in
御殿場
八月三日〜六日

	時間	プログラム
1日目	7:30	島根小学校集合 出発式
	12:00	国立中央青少年交流の家 着 入所式 昼食
	13:00	テント講習・設営 かまど講習
	16:00	夕食作り (クリームシチュー)
	18:00	レクリエーション シャワー
	21:00	係会議-班会議 就寝準備・就寝



テント設営



初めてのアウトドアクッキング

地域活動に参加する子どもは心が強くなる

親子でつながる地域の輪

育成者セミナー

去る七月八日、足立区少年団体連合協議会では、平成二十九年度子ども育成者セミナーを足立区役所十三階会議室にて行いました。

セミナーは、九十八名の参加を得て、多島三好事業研修部長の開会の言葉に始まり、主催者として山本輝夫少連協会長、寺島光大青少年課長が挨拶されました。今年度は、足立区政策経営子ども貧困対策担当部長の秋生修一郎様を講師に招き、未来へつなぐあだちプロジェクト「もうひとつの居場所もうひとつの大人」をテーマに講演していただきました。

足立区では三つの基本理念に基づき取り組みを行っています。中でも「予防、連鎖を断つ」ことが



講師 秋生修一郎氏



会場の様子

重要であり、親に期待しすぎず、子ども達に少しずつでも経験・体験をさせることが良いそうです。子どもの健康・生活と生活困難との関連調査結果では、「保護者が困った時に相談できる相手がいると、子どもの健康リスクが軽減する」とまとめています。私達が目指すのは、子どもたちを地域で見守り育てることです。



居場所と大人について、①親②先生と呼ばれる方③地域④自分の年齢に近い大人で信頼できる人と、基本的に安心できる場所です。続いて講演内容をテーマに、十班に分かれグループ討議に移り、「貧乏と貧困」の違いなどについて、活発な意見が飛び交い有意義な時間を過ごしました。講師から、「当たり前の生活ができない子ども達がいることを理

解し、参加者への願いは、一、こちらから声をかける。二、子どもを褒める。三、皆さんが健康でいる。そして、無理のないことから長く続ける工夫をお願いいたします」とありました。

最後に、大林副会長から「知らないうちに皆様は第二第三の大人居場所になっています。自信を持ってください」との言葉、山本会長から「情報を持ち帰り、地域に広げてください」とのお願いで長時間にわたりに行われたセミナーは幕を閉じました。

編集後記



今年度も既に半年が過ぎ、総会からキャンペーンまで、様々な行事を行いました。これからも、子どもたちの頑張っている姿、笑顔をお届けする広報紙を目指していきます。今後とも、ご協力、ご指導をよろしくお願いたします。

